

# 土砂崩れとぬかるみ ヒマラヤ山間部を運転することについての試論

古川不可知（国立民族学博物館）

本発表の目的はネパール東部のソルクンブ郡を事例に、①ヒマラヤの山間部で建設の進められる車道が人々によってどのように認識され、日々の生活にいかなる影響を及ぼしているのかを概観したうえで、②山中を運転することの実践とそこに付与される意味について、特に乗り合いジープのドライバーたちに焦点を当てながら報告することである。

発表者が調査をおこなってきたソルクンブ郡は、エベレストの南麓に位置する山岳地帯であり、トレッキング／登山観光のメッカとして知られている。標高の高い北部のクンブ地方には車道がなく、山の斜面に開かれた飛行場がトレッキング観光や物資輸送のハブとなる。他方、標高の低い南部のソル地方までは首都のカトマンズから車道が到達し、クンブ地方に向かって延伸工事が続けられている。現在は上述の飛行場まで歩いて3日ほどの地点で道路建設作業がおこなわれている。

もっとも車道とはいっても、ネパール山間部の道路は既存の山道を切り通して車両がようやくすれちがえる幅にまで拡幅したものに過ぎない。道路際の湧き水は小川となって車道を横切り、土の路面に深い溝を刻む。道は雨が降ればぬかるみ、乾くとひび割れて谷へと崩落する。山がちで様々な理由からメンテナンスも行き届かないネパールにおいて道路が平らであることは、首都や幹線道路であっても珍しく、それはある種の憧れを持って語られる対象でさえある。

①新たな移動技術の導入が、利用者や周辺住民の時空間認識を変容させてきたこと[e.g. シベルブシュ 1982]や、現在のわれわれが当たり前とみなすようになった環境や景観を作り出してきたこと[e.g. レルフ 2013]は、これまでにも数多く論じられてきた。他方、道路によってもたらされた接続が沿道の共同体に予期せぬさまざまな影響を及ぼすことも報告されている[e.g. Harvey & Knox 2015]。

本発表ではまずこれらの知見を手掛かりとしつつ、山間部の道路建設が地域の生活にどのような変化をもたらしたかについて概観する。また沿道住民やドライバーに対する聞き取りから、人々がこうした山間部の道路や「モータリゼーション」をどのようにとらえているのかを報告する。

②ソルクンブ郡の南部に位置する郡庁のサレリまでは、カトマンズからジープによる定期便が朝と晩に運行されており、所要時間は8時間ほどと説明される。だが発表者がこの便を利用する際には、ほぼ例外なく

土砂崩れによる通行止めや悪路での立往生、あるいは車両トラブルに見舞われ、到着まで24時間以上かかることさえあった。

本発表ではまた、これまでに何度も乗車したこの地域のジープ・ドライバーたちについての観察や、ジープ内の断片的な会話などに基づいて、ヒマラヤ山間部の環境中を運転するという実践のありかたについて報告し、そこに付された意味を明らかにする。

ネパールの山間部をゆくジープのドライバーはほぼ例外なく男性であり、彼らはしばしば運転することの「男らしさ」を誇る。また、車体には力強さや愛国心をアピールするような装飾が施される。またシベリアのトラック運転手について観察したアルゴウノヴァ=ロウ [Argounova-Low 2012]も述べるように、とりわけ悪路ではドライバーは周囲の状況を絶えず観察し、聴覚やシートを通して伝わる振動から路面の状態を知覚しなければならない。少なくともネパールの山間部において、運転とは極めて身体的かつ「男性的」な実践なのである。

なおここまで議論は、発表者がこれまで研究をおこなってきたソルクンブ郡の山道を歩く人々、とりわけ「シェルバ」と呼ばれるトレッキング・ガイドたちの実践と大きく共通する側面を持っている。また車道が開通した地域では、ガイドやポーターをしていた人々の一部が、ドライバーへの転職を模索しているとの話も耳にする。本発表では、山を歩くことと運転することのあいだにある連続性と差異も視野に入れながら、ヒマラヤ山間部を運転することについての試論を提示する。この議論は山という環境中の移動について広く検討するものであり、人間の移動を包括的に捉えるための理論的枠組みを構築する一つのステップとなる予定である。

## 【参照文献】

Argounova-low, Tatiana

2012 Roads and Roadlessness: Driving Trucks in Siberia.

Journal of Ethnology and Folkloristics 6(1): 71-88.

Harvey, Penny and Hannah Knox

2015 Roads: An Anthropology of Infrastructure and Expertise. Cornell University Press.

シベルブシュ、ヴォルフガング  
1982 『鉄道旅行の歴史』 加藤二郎(訳)、法政大学出版局

レルフ、エドワード

2013 『都市景観の20世紀』 高野岳彦ほか訳、筑摩書房

キーワード ネパール、ヒマラヤ、道、モビリティ、インフラストラクチャー